

# 電子マニフェストの活用で業務負荷低減へ

## 株式会社マルエツ

ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社  
経営管理本部サステナビリティ推進部（出向） 田島 慎也

### ■ 企業プロフィール

マルエツは、首都圏の1都5県に307店舗(2025年8月末現在)を展開する食品スーパーマーケットチェーンとして、「マルエツ」「マルエツ プチ」「リンコス」の屋号でお客さまをお迎えしています。マルエツのブランドメッセージである「しあわせいかつ。」をもとに、お客さま、従業員、そして地域の暮らしを支える「いちばん近い存在」になりたいという想いを、私たちの「ありたい姿」として明文化し、活動指針としています。

この想いのもと、お客さまに選んでいただけるお店づくりに取り組んでいます。

また、サステナブルな社会の実現に向け、環境に配慮した取り組みや社会課題の解決に寄与する活動を推進するとともに、従業員一人ひとりの成長がマルエツの成長と考え、自主性を重んじる企業文化の醸成に努めています。

### 企業概要

創 業：1945年10月

所 在 地：東京都豊島区東池袋5-51-12(本社)

従業員数：15,926名（2025年2月末現在）

※1日8時間換算による期中平均人員

事業内容：食品スーパーマーケットチェーン



写真1 店舗外観

## 1 電子マニフェストの導入

マルエツ各店舗から出る廃棄物は、お惣菜の調理などに伴い発生する生ごみ、魚腸骨（魚のアラ）、廃食油の他に、主に食品包装資材や手袋などの消耗品資材、発泡スチロールなどの廃プラスチック、ダンボール、粗大ごみなど多岐にわたります。最も排出量の多い食品廃棄物については、昨年1年間で6,900

トン発生しています。マニフェスト制度の対象となる産業廃棄物については、すべて電子マニフェストで管理しており、昨年の発行件数は約17万4,000件でした。

当社では、2007年という比較的早い時期に電子マニフェストの運用を開始しました。導入の背景として、店舗数が多く、多量のマニフェストを発行する必要があるため、紙マニフェスト運用時における会社全体の業務量やコストが非常に重く、本社で容易に全体管理出来ないことが課題でした。また、店舗では商品の陳列や管理、接客など様々な業務がある中で、可能な限り後方業務の負荷軽減を図る必要があり、これらの課題解決のため、電子マニフェストを導入しました。

## 2 電子マニフェストの運用と業務の改善

導入当初は本社が全店分のマニフェストデータをCSVデータで作成し、JWNETにファイルを取込むことで日々のマニフェスト登録を行っていました。これまでの個々の店舗による紙マニフェストの管理業務とは違い、本社が短時間で全店分のマニフェストを一括して登録・管理することが可能となりました。電子化により紙マニフェストの保管作業が

不要となり、紛失リスクもなくなりました。最大のメリットとして店舗でのマニフェスト運用にかかわる業務量が大きく減少しました。ただ、CSVデータの読み込みエラーが発生することも多く、その確認・修正作業に一部課題がありました。

2014年からは更なる効率化を目指し、EDI方式\*を活用しています。当社の廃棄物管理業務委託先の所有している管理システムとJWNETが連携しており、運用管理を効率的に行っています。具体的には管理システム上の廃棄物の種類や実績といった情報をそのままマニフェスト情報としてJWNETへ活用することができるようになり、更なる業務の自動化や効率化を実現しました。

\* EDI方式…JWNETは外部システム(ASP)と連携可能で、ASPが提供するシステムを利用し電子マニフェストの運用・管理を行うこと。

### 3 環境への取組み等について

#### ○廃棄物計量機の導入と食品廃棄物の削減

当社は2014年に廃棄物計量機を導入し、特に食品廃棄物とプラスチックごみの見える化に努めています。いつ・どこで・どんなごみが・どれだけ発生したか、店舗別・部門別に確認することができるため、廃棄物削減に取り組む上で、ターゲットをピンポイントに絞り込み対策を講じることが可能となりまし

た。計量機導入効果とその後削減努力により、食品廃棄物の発生量は、10年前と比べて4,500トン減少しています(2014年度11,400トン、2024年度6,900トン)。

写真2



写真2 廃棄物計量機

#### ○食品リサイクルの拡大

当社で発生する食品廃棄物においては、全体の約40%をリサイクルしています。その内訳として既に廃食油と魚腸骨は100%リサイクル実施済みですが、残りの食品廃棄物(主に野菜くず)については、依然として実施率が低く、100%リサイクルを目指して取り組んでいます。

#### ○最大の課題はプラスチックごみの削減とリサイクル推進

当社で発生するプラスチックごみの大半が食品残渣が付着した軟質ビニール、いわゆるリサイクルに不向きな汚れプラであり、その処理には多大なコストがかかっています。いかに排出量を削減し、リサイクル率を向上させるかが今後の最重要テーマです。

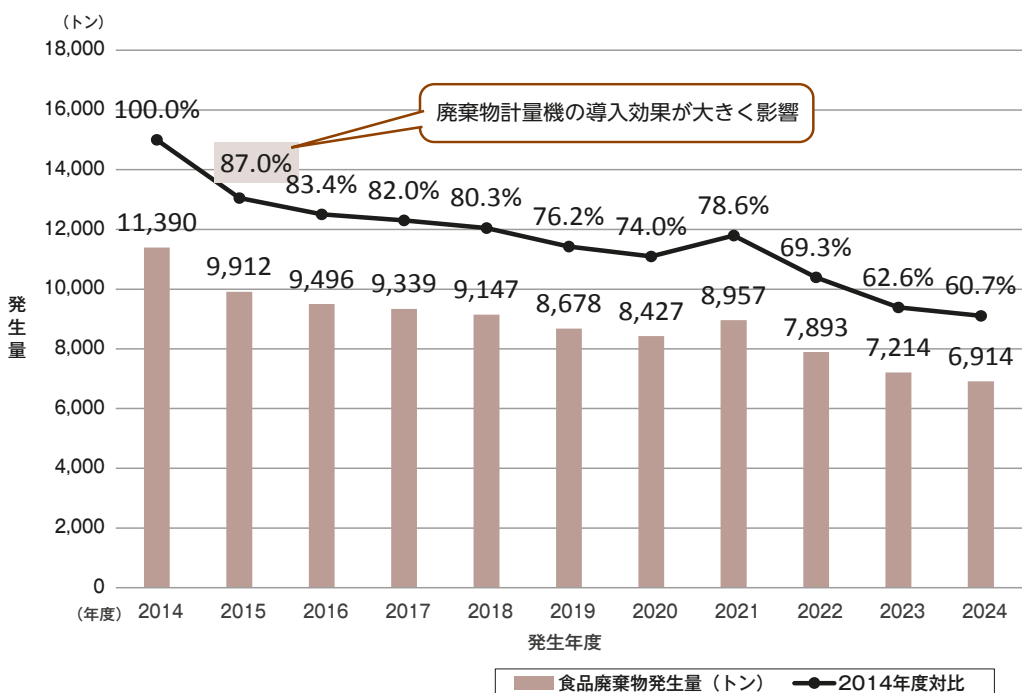


図 食品廃棄物発生量